福島県の小学生が本市で冬休みの一日を満喫

平成28年12月24日から28日まで、福島県相馬市の小学生が芦別市を訪れました。

これは、東日本大震災・避難者受け入れ支援事業「北の大地に会いに行こう」の冬期コースとして星槎グループと市が主催し、５年前から行っているもので、小学３年生から６年生までの男女合わせて38人が参加しました。

一行は24日夕方、フェリーとバスを乗り継いで、緑泉町の星槎国際高校スクーリング棟に到着。歓迎式やパーティー、雪遊びなどのほか、26日には、国設芦別スキー場でスキー体験を行うなど＝**写真**＝、芦別での冬休みの一日を満喫した様子でした。

成人式に98人出席、「大人としての自覚と責任」誓う

１月８日、芦別市成人式が青年センターで行われました。

今年の新成人は平成８年４月２日から平成９年４月１日生まれで、市内では男性78人、女性51人の合わせて129人が対象となり、式典にはこのうち98人が出席しました。

式典では、福島修史教育長と今野宏市長から新成人にお祝いの言葉が贈られたほか、新成人を代表して宮田知輝さんと相馬美希さんが、「自覚と責任を持ち、目標を高く掲げながら精進していきます」と成人の誓いを述べました＝**写真**＝。

式典後は、ふれあい広場が開催され、同級生との再会を楽しんだり、記念撮影したりと、会場内は華やかな雰囲気に包まれていました。

市と郵便局が「地域協力協定」、共成レンテムとは「災害時協定」結ぶ

平成28年12月26日、市は郵便局との間で、「地域における協力に関する協定」を結びました。これは、郵便局が業務中に高齢者や子どもの見守り、道路の異状などを発見した場合に市へ連絡し、事故防止が図られることを目的としたものです。

また、１月10日には、市と㈱共成レンテム滝川営業所が、「災害時における機器の確保に関する協定」を結びました＝**写真**＝。これは、地震をはじめ大きな自然災害が発生した場合に、同社が復旧作業のための重機や避難生活に必要な発電機などを確保し、住民生活の早期安定を図ることなどを目的としています。

大声を出したり笑ったり、子どもたちが絵本パフォーマンスを楽しむ

１月13日、絵本パフォーマー森下智崇さんによる読み聞かせ「絵本をたのしもう」（中空知広域圏主催）が児童センターで開催されました。

森下さんは、本市出身で、現在訓子府町で酪農業を営む傍ら、「もりやの語り屋」の名で道内各地でユニークな絵本の読み聞かせ活動を行っています。

当日は、子どもと保護者ら合わせて約100人が参加。森下さんが『もこもこもこ』や『どんどんどんどん』など６冊の絵本にオリジナルの音楽をつけ、大きな声で振り付けをすると、子どもたちも森下さんの動きに合わせて元気な声を出すなど、一味違った絵本の読み聞かせの楽しさに引きこまれていました。